

## 栃木県足利市

### 【活動概要・効果】

#### ☆歴史的街並み、文化を活かしたまちづくり

○歴史的地区環境整備街路事業が完成したことを受け、地元いくつかのまちづくり団体が設立され、石畳を利用したフリーマーケットや蔵を使用している作品展示などが行われている。

☆歴史的町並みを活かした各事業は周辺地区の歴史的雰囲気醸し出すだけでなく、地域住民のまちづくりに対する意識も大いに向上。「いしだたみの会（地元イベント「節分鎧年越」の雰囲気作りや警備支援等を実施）」、「茂右衛門の会（歴史的街並みを形成する「茂右衛門蔵」の保存活用）」、「奥の院通り研究会（フリーマーケットを定期的開催、市内外からの出店ある）」のほか、石畳の清掃、樹木の手入れの活動をしている団体など、数多くのまちづくり団体が活動。

☆足利学校の入場者数は受賞時に比べ2倍以上に増えるなど、足利を訪れる観光客が年々増加している。



歴史的町並み 大門通り

#### 《人員確保での工夫・苦勞》

交流人口を増やすために、地元の人が活躍できる場所の提供、参加意識を高めるための施策の展開により、参加者が増えた。また、観光客の声を聞くことができ、自分たちも学習し、次の活動につながっている。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

当初は商工会議所の会員になっている人が中心であったが、地元の自治会と連携が必要不可欠であり、活動のしやすさも考え自治会の組織を主体とした。その結果、活動するための場所の確保等、地元の住民の協力を得やすくなった。（奥の院通り研究会）

#### 《活動資金確保での工夫・苦勞》

活動資金については、会員からの会費が主なものであり、活動資金確保は厳しいが、例えばイベントで展示会などを開催する場合は、地元の宝物や会員から借用し、経費節減に努めている。多額のお金を掛けるのではなく、会員の創意工夫と労力の提供により、継続的な活動を行っている。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

当初の2年間は、商工会議所から補助金をいただいたが、その後の収入は出店料のみ。また、じけんち市は雨天中止のため、安定した収入の確保が難しく、資金確保は厳しい。会員からの会費はないが、出店料と商工会議所、地元住民の協力により成り立っている。（奥の院通り研究会）

#### 【現場の声】

平成2年の歴史的地区環境整備街路事業の完成により、この整備を活かしたまちづくり団体が次々と設立され、地域住民と行政が一体となり、足利学校・ばんな寺を中心とした新しいまちづくりを行っている。

会員は商業者と地元住民が半数ずつで組織され、商業者と住民とのコミュニケーションに苦勞したが、商業者が2倍汗をかくこと、及び茂右衛門蔵の会が組織されたことにより茂右衛門蔵を活動の拠点とすることなどで、地域コミュニティに一体感が生まれ、双方が協働して活動できるようになった。活動等は会員の負担とならないよう強制せず、会員の空き時間を利用している。（いしだたみの会、茂右衛門蔵の会）

3月から12月の第二日曜日に開催している「じけんち市」は出店者から出店料をいただきながら継続的に活動している。また、気軽に出店できるように、業種は特に指定せず、現在、商工会議所や地元の人々の協力もあり、50から60店舗の出店をしており、開催回数も140回を超えた。（奥の院通り研究会）

～足利市役所企画課



じけんち市